

1. 研究活動

【論文】			
現代青年の思春期の葛藤に関する考察—映画『スタンド・バイ・ミー』に触発された大学生の回想文をもとに—	2013. 3. 29	名古屋芸術大学研究紀要 第34巻 pp.103～126	大学生に『スタンド・バイ・ミー』を鑑賞させ、自らの思春期を回想してもらい、親や兄弟、友人との関係とその間にあった葛藤を書かせた。その文をもとに、現代青年の思春期の葛藤の特徴と現在問題となっている親への依存の長期化等を関連させ、考察を行った。
【学会発表・口頭発表】			
子どもは映像をどう見ているか—映像の表象性理解の発達—	2012. 9. 12	日本心理学会第76回大会発表論文集	本講演では、外的表象の中でも動画、静止画映像を取り上げ、映像の対象がモノの場合とヒト場合、またヒトの場合はさらに自己の場合と他者の場合で区別し、幼児期の子どもがそれらの映像を理解する過程について、実験的データをもとにして体系的な理論化を試みた。
【学会発表・ポスター発表】			
Is the picture of clay heavier than that of feather? — Children's understanding of representational nature of photographs—	2012. 7. 9	ISSBD 20th Biennial Meeting Abstracts p.414, (Alberta, Canada)	共著：木村美奈子、加藤義信 幼児が写真の表象性をどのように理解しているかを調べるため、実物と写真の属性の共有の理解に焦点を当て実験的研究を行った。実験では対象の「重さ」という属性を取り上げ、写真はその指示対象が有する「重さ」という属性をも共有すると考えているか否かを検討した。その結果、4割近くの子どもが「写真のねんどのほうが重い」とする反応を行った。幼児が写真そのものが指示対象の重さ次元の属性を有するように考えていることが示唆された。
幼児は写真の重さを何によって決まると考えているか？—フレーム・指示対象・被写体の大きさに着目して—	2012. 3. 15	日本発達心理学会大23回大会発表論文集 p.243	共著：木村美奈子、加藤義信 本研究では、4歳児における「重さ」のproperty realismの反応に影響を与える要因を調べた。実験では、写真のフレーム、指示対象、被写体のそれぞれの大きさを変化させ、3つの要因のうちどの要因が相対的に写真の「重さ」の判断に影響を与えるかをみた。その結果、写真画紙の大きさが一定である場合は、子どもは被写体の大きさに注意が引かれやすく、写真画紙の大きさが異なれば、その大きさ自体に注意を向けることができることが示唆された。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 心理学		
<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
様々な分野の心理学を扱う授業なので、ともすれば、一貫性のない授業展開になりやすいが、本講義ではそれぞれの心理学の主要なトピックスを、二つの大きなテーマにそって展開した。授業時間はいくつかのコーナーにわけ、学生の集中力が続くようにした。学生自身が心理学の実験や調査に参加できるよう工夫した。さらに、学生には、毎回、授業の感想・質問を書かせ、授業の最初にそれに答える時間を設けた。	ビデオ、パワーポイントなど視覚的な教材を豊富に使用した。特にパワーポイントではアニメーションをできる限り利用し、飽きのこないスライド作りを心がけた。印刷資料も豊富に用意し、学生の理解を促進するよう心がけた。	
授業科目 学習心理学		
<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
本科目は教職科目でもあるため、学習心理学の基本から、学校現場でも役に立つ知識まで、幅広く授業を展開した。また、教員採用試験に対応できるよう、試験対策もできるだけ授業に盛り込むよう心掛けた。	毎回、パワーポイントを用いて授業を行った。学生にはパワーポイント資料の重要点が抜けているところを穴埋め記述させ、重要点が分かりやすいように工夫した。ビデオ教材もできるだけ活用し、飽きの来ない授業を心がけた。	
授業科目 教育相談		
<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
本科目も教職科目であるので、今、学校現場で何が起きているのかを、具体的に考えさせる授業を展開した。また、実践的な観点から、中・高校生が有するような悩みに対して、アドバイスを書く課題や、実際に学生同士でカウンセラーとクライアントに分かれ、カウンセリングの練習を行った。授業内容によっては、学生をグループ分けし、グループ討論を実施した。	毎回、パワーポイントを用いて授業を行った。学生にはパワーポイント資料の重要点が抜けているところを穴埋め記述させ、重要点が分かりやすいように工夫した。ビデオ教材もできるだけ活用した。	

3. 学会等および社会における主な活動

日本発達心理学会	2002. 4 より現在に至る	研究発表、論文の投稿
日本心理学会	2004. 4 より現在に至る	研究発表
日本教育心理学会	2008. 12 より現在に至る	研究発表
International Society for the Study of Behavioural Development	2012. 1 より現在に至る	研究発表